

高校生対象

病理学・法医学セミナー

@東大 (10/27(日))



病理医を知っていますか？

～検診から手術、もしもの時も、ふりむけばそこに病理医～

冒頭の人体病理学講座 牛久哲男教授の挨拶に続いて、同講座 池村雅子講師より病理医の仕事についての講演が行われました。大腸がんの診断・治療過程でどのように病理医が関わっているかを写真やイラストを用いてわかりやすく説明していただきました。正常の大腸粘膜と大腸がんの違いを学んだ後、浸潤・転移などのがんの特徴についても知ることができました。また“もしもの時”には病理解剖で医療を支えているというお話もありました。池村先生のようにパズルや間違い探しが得意な人は病理医向きかも？！

あなたの「がん」に効く薬ーがんゲノム医療を支える病理医ー



続いて同講座 牛久綾講師よりがんゲノム医療とその中での病理医の役割についての講演が行われました。染色体やDNA等の基礎知識の確認の後、ゲノムをレシピブックに例えてわかりやすく説明していただきました。個々のがんの個性を見極めることでより効果的な治療や副作用の少ない治療ができる可能性があり、がんゲノム医療が重要で今後期待される医療であることを知りました。また東大病院で実際に行っているがんゲノム医療のお話もあり「がんそのものを目で見るができるのは病理医だけ」と聞いて病理医になりたくなった参加者も多いはず！

顕微鏡を使ってがんの組織をみてみよう！

普段大学生が実習で使用している顕微鏡を用いて、がんの組織や身の回りのものを観察しました。顕微鏡の使い方や標本の見方を、実際の病理医に教わりながら体験しました。



法医学ってなあに？

実習の後は再び小講堂で法医学講座 岩瀬博太郎教授より法医学者の仕事についての講演が行われました。法医学者ならではの独特の視点からのアプローチや社会的な応用を念頭においた研究を実際の例を用いてご説明いただきました。犯罪や事故・流行病等を見逃さないためにも死因そのものだけでなく、死亡までの経過が大事であることを知りました。解剖や死後画像等の各種検査を組み合わせた総合的な死因究明の重要性もお話していただきました。わが国では諸外国と比較して人材も設備も不足しており、法整備等がすすんでいる段階とのことで、これからますます発展が期待されそうです。



病理学や法医学の第一線で活躍中の先生方のお話を聞いて、より興味を深めた方も多かったのではないのでしょうか。今後も多彩な内容で皆さんの興味に応えていきたいと思っております。またのご参加お待ちしております！

主催 東京大学 順天堂大学 福島県立医科大学